やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	16 / 2001 / 32-33
タイトル	平成12年度「せせらぎウォッチング」始末記
著　者　名	坂本瀧夫

平成12年度『せせらぎウオッチング』始末記

初代　坂本瀧夫　(青森県陸水生物研究会)

プロローグ

今年度の「せせらぎウオッチング」は、5月18日の県環境管理課の根岸さん、一戸さんとの面談から始まった。

今年度は10箇所ほどだったが、内容的はとても充実したものになってきているように思われる。それはこどもたちの調査・研究に立ち向かう姿勢が少しずつではあるが、できあがってきていることから伺える。

今年度もやはり下北の脇野沢から西郡の岩崎までと広範囲にわたっての調査であった。残念だったのは、福地村立福田小学校の馬淵川調査が増水のため中止になり、五戸町の切谷内小と蝦川小との五戸川合同調査が二度にわたって延期になったことである。五戸川についてはかなり興味があったし、楽しみでもあったから、何とかして実施したいものだと考えていたのだが、悪天候と増水によって中止のやむなきに至ったのであった。13年度にはぜひ調査したいところである。

また、この記録には掲載しなかったが、新しい試みとして青森市立野内小学校の使用前プールに飛来生息している水生生物の状況や水温、CODなどの調査をしたことが特筆される。

お目当てのヤゴ類を採取することはできなかったが、コマツモムシ、コミズムシ、ホソバトビケラなどの棲息が確認された。今後プールのあるほかの学校でもこうしたシーズンオフの場所を活用しての観察・調査を実施すれば、生物離れ、理科離れをいくらかでも解消できるかもしれないのだが……。

実　績

◇ *初めてナミウズムシが採取された*…**内真部川**(青森市中央市民センター生物調査隊)

6月10日　今年もヒゲナガカワトビケラを採取することはできなかった。

◇ *アミカを見つけ歓声を上げた*…**川内川**(第二川内小学校)

6月17日　カゲロウ類、カワゲラ類が多く採取されたが個体が小さくて同定困難だった。

◇ *ヒル、ミズダニが多く採取された*…**浅水川**(豊間内小学校)

6月19日　マダラカゲロウ、キイロカワカゲロウが目立った。ナベブタムシが見つかるかも知れない。

◇ *海に近くおもしろい川*…**川内川**(脇野沢「わんぱく広場」親子会員)

6月24日　日帰りでは時間に制約され、子供たちには申し訳ない行事になっ

ている。来年は一泊での調査を考えたい。

◇ *徒歩で移動でき、初めてのナミウズムシ採取*…**野辺地川**(野辺地エコクラブ)

6月25日、今年はシロウオの卵は見つからなかった。ふ化が終わってしまったのかも知れない。

◇ *父母の授業参観もあった*…**奥入瀬川**(六戸小学校)

7月3日　下流部で底は砂地。コガシラミズムシ、ゲンジボタルの幼虫などが採れ歓声があがる。

◇ *カジカ採りでにぎわう*…**浅瀬石川**(黒石市教委)

7月16日　虹の湖ダム建設から14年目で採れ始めたカジカ。豊富な生態系が自然の復元力により徐々に戻る。

◇ *国立公園の真下*…**蔦川、奥入瀬川の合流点**(六戸小学校、奥入瀬小学校合同調査隊)

8月31日　遠足と二校の親睦をかねての親水活動、親の方が夢中になる。

◇ *どぶ川で生徒がビビッタ*…**沖館川**(新城中学校)

9月5日　市内の学校での行事には足の確保が不可欠、今度はもっときれいな場所を見つけてあげたい。

◇ *外観美化の工事が続く*…**笹内川**(岩崎小学校)

9月19日　一度延期しての行事だった。この時期水温19度は高すぎる。今年からホタル探検隊を結成するという。うまく見つかるといいが。

エピローグ

今年度の「せせらぎウオッチング」はどうやら終了した。

いろんなことがあったが、前年よりは質的に収穫があったように思われる。何よりも今年のこどもたちは取り組みが前向きだった。水生生物はもちろんだが、その他の生物についても好奇心丸出しのように色々と質問していたことが、次から次へと思い出される。

ホタルのこと、ウズムシ(プラナリア)のこと、タガメやガムシのこと、マツクイムシのことなど……。

そればかりではなかった。

こどもたちの住んでいるところには、その地域により特性がある。それらを通して、地域を知り自分たちでそれを活用しながら、よりよく自分たちの地域を活性化させようという意気込みが少しずつではあるが感じられる。

未来に夢をかけているこどもたち、まだまだ捨てたものではない。

調査地点や回数を選択しながらも私たちは、引退してはいられないだろう。

こどもたちや地域の要請がある限り進み続けよう。